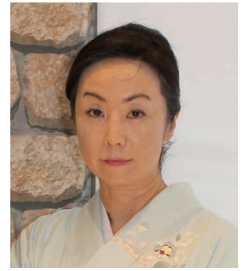


## Shai Yabani in Abu Dhabi ～アブダビでの茶道



裏千家アブダビ茶道教室 講師 平岩 夕佳

「ここはカフェなの？ 次のショーは何時から？ マッサージルーム？ Oh…Shai Yabani!!」  
——その前を通る旅行客たちからこのような言葉をよく受けます。

茶室「緑水庵」は、アブダビを訪れたことがある人なら必ず訪れることがある観光名所、豪華絢爛7つ星ホテルであり UAE の迎賓館でもあるエミレーツパレスホテルの1階にあり、2009年以来エミラティ（UAE 人）を始めとした様々な国籍のお客様をお迎えし、茶会を催しております。また茶道の稽古や、茶道を紹介するデモンストレーション等に活用されています。

今回は、なぜ茶室がアブダビを代表するホテルの中心に置かれ、アブダビの中で茶道を始めとした日本文化が受け入れられているのかお話ししたいと思います。



緑水庵 エミレーツパレスホテル1階



2009年、裏千家大宗匠と皇太子殿下（現大統領）

### 緑水庵の歴史

2008年10月、アブダビのシェイク・ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン皇太子殿下（現大統領）ご臨席のもと、裏千家第15代家元千玄室大宗匠による初めてのお茶会がアブダビで催されました。そして翌2009年12月には、ムハンマド皇太子殿下へ友好のしるしとして、大宗匠献上の茶室、緑と水に恵まれた心のオアシスとなることを願って命名された「緑水庵」が建造され、その茶室披きが、執り行われました。緑水庵には

路地や刀掛け、躰口もあり、その建材などは全て日本から運び入れられました。

皇太子殿下はその場で、無地の扁額に筆と墨を用いて「みどりのオアシス」とアラビア語で揮毫（きごう）、署名されました。その扁額は現在も茶室に掲出されています。さらに、2011年12月および2013年3月に、大宗匠によるお茶会や講演会がアブダビで行われました。

## アブダビ茶道部の発足

緑水庵の茶室披きに先立つ2009年10月、皇太子府選抜のエミラティ学生6名と皇太子府職員1名が京都裏千家に赴き2週間の茶道研修に参加しました。その後、現地駐在している日本人の茶道経験者が講師となり、選抜者を始めとしたエミラティたちへの茶道稽古が始まりました。エミラティの稽古を補佐し、また共に修道していくために、茶道をより広く知ってもらう活動を行うため2012年より茶道経験のない一般の日本人駐在者も茶道のメンバーに加わり、現在では一緒に活動しております。

## 日常の茶道稽古

現在は緑水庵と日本人学校の敷地内にある日本文化センター内の茶室で毎週2回の稽古を行っております。現在エミラティメンバー20名、日本人メンバー18名です。発足時から10年以上にわたりお稽古を続けて、茶名を持っているエミラティメンバーも6名おり、新しく茶道を始める人に教えたり、アブダビ茶道を支えています。彼らは茶道を始めとした日本文化全般に大変興味を持ち、非常に熱心に茶道を学んでおります。

2022年2月より4名の新しいエミラティがメンバーに加わりましたが、家には畳を置いた簡単な茶室を設え、毎週お稽古に参加し、日本語でやりとりなどをしながら、日本人以上に茶の湯を楽しんでいます。

日本人メンバーも茶道経験者から初心者まで様々ですが、お稽古の準備から後片付けまで取り組み、茶碗、茶杓のお道具や、お菓子などを手作りするなど、色々と工夫しながらアブダビならではの茶道を楽しんでいます。それと同時に、アブダビにいながらも日本の行事や季節を味わえるような茶事稽古（1月 初釜、3月 雛祭り茶会、5月 子供の日茶会、7月 七夕茶会、11月 炉開



エミラティメンバー20名、日本人メンバー18名で  
毎週2回の稽古。

など) をエミラティと日本人で協力して行い、日々のお稽古、お茶の意味を考えたりしながら、新しい発見の場となっております。例えば「緑水庵」での初釜では2日に渡って、亭主とお客様グループに分かれて行いました。懐石も手作りの持ち寄りで、エミラティもアラビック料理を持ってきてくれるので、みんなの楽しみの一つです。席入りや中立も経験し、正式な茶事の流れを学ぶ良い機会になっています。普段なかなか会えないメンバーとも顔を合わせられる、楽しいひとときです。



2020年、「緑水庵」での初釜では2日に渡って、亭主とお客様グループに分かれて行いました。蹲って銅鑼の音を聞いている様子 (左)

また、裏千家より業躰（ぎょうてい）先生（お家元直属で名代として指導をされる先生）を派遣していただき、UAE 要人をお招きしての茶会や茶道を紹介するイベントに加えて、メンバー向けにお稽古をしたりしていただいております。



業躰先生による ADNOC HQ での茶道デモンストレーション (左) 講習 (右)

## アブダビでの茶道紹介イベント

これは主にエミラティを対象にした活動ではありますが、国籍、年齢を問わず茶道を体験し、紹介していく活動を行っています。これまでの主な活動内容は以下の通りです。

- UAE 大学，カリファ大学，ザイド大学など UAE 内の国立大学でのデモンストレーション
- ニューヨーク大学アブダビ校 日本文化専攻生徒向けの茶会，講義
- ATHS (Applied Technology High School) 日本語選択生徒向けの茶道体験教室
- 日本人学校生徒，日本人幼稚園園児向けの日本文化紹介の一環として茶道体験
- ADNOC (HQ, Onshore 他) をはじめとした現地企業への茶道紹介
- Etihad ホテルでの Sakura フェスティバル等
- Abu Dhabi Youth hub など公共の文化施設でのデモンストレーション
- 初心者教室 (全10回コース) など



ザイド大学 JAPAN デーでの  
デモンストレーション



ATHS での茶道体験教室

## 本年の活動

コロナ禍後は上記のような大勢に対して茶道デモンストレーションや呈茶をする機会が減ってしまっています。しかしその代わりに、少人数を対象として、お点前を体験してもらったり茶道体験教室や、お客の心得と振る舞い、また点茶体験をして自分でお茶を点てて喫んでみるなど、違った形でのワークショップを行い、茶道を身近に感じてもらえるような活動を行っています。

2022年より月に1回程度開催している茶道体験ワークショップには毎回多くの申し込みがあり、日本文化への興味の高さが伺われます。ただ点前を見るだけでなく、実際に手を動かし、自分で帛紗を捌いて道具を清め、お茶を点てる過程を行うことにより、茶道、

日本文化が決して遠いものではなく茶道は身近な「おもてなし」であることを感じてもらっていると思います。



初心者教室の様子



茶道体験ワークショップでは、少人数を対象として、お点前を体験してもらっています。

## イスラム文化と日本の茶道

先に述べたように、宗教も文化も全く違うアブダビでも、日本の茶道が受け入れられております。「和敬清寂」と呼ばれる茶道の精神には、イスラム文化との共通点が多いこともその理由でしょう。

例えば、モスクと茶室は、外形は違っていてもどちらも、

- 中に入ると、人種・身分が違っていても誰もが平等、
- 中に入るときには靴を脱ぐ、
- 中に入る前に体を清める、
- 清潔な場所、なのです。



茶室に入る前には、  
蹲で手を清めます。

茶道を始めとした日本文化には決まった「型」があり、それに沿ってお点前をし、呈茶され、その時間を主客が共有し楽しめます。その決まった「型」の中でおもてなしの心を伝え、また客はそれを感じます。どのような文化の中でも相手を思いやり、「一期一会」のひと時を楽しむ心は同じなのではないでしょうか？

## 今後の展開

裏千家、千玄室大宗匠は、『一碗からピースフルネスを』の理念を提唱し、世界60数カ

国を300回以上歴訪、茶道文化の浸透・発展と世界平和の実現に向けた活動を展開しております。

アブダビ茶道も格別のご配慮とご支援を賜っております。

2019年12月には緑水庵、アブダビ茶道設立10周年を迎え、2020年3月に記念行事を予定しておりましたが、残念ながらコロナ禍で全て中止になってしまいました。規制が緩くはなりましたが、アブダビでも茶道紹介を以前のように行うことは難しくなっているのが現状です。

反面、裏千家のオンライン発信も増え、新しい形のお稽古を知ることができ、日本を始めとして世界中の茶道部と繋がることができるようになりました。SNS等を活用してオンライン茶会なども簡単にでき、そのような媒体を通して、茶道を発信できるようになってきております。茶室内のみでなく、ときには砂漠やマジリス（みんなが集って座る部屋や場所）などでも茶会ができること、日本と全く同じ道具がなくても、手に揃うものでも十分にお茶を楽しめることなども学んでいます。新規メンバーも定期的に入っていることから、今後も幅広い活動を行なっていく予定です。

現在は私たち日本人が中心となってお稽古や茶道紹介活動を運営しておりますが、今後はエミラティたちが中心となり、自分達のアブダビ茶道を作っていくことができるよう、彼らの自主性を尊重し、その気持ちを助け、補佐するような活動も増やして行きたいと思っています。



砂漠でのお点前の様子

(写真は全てアブダビ茶道部撮影)